

平成 28 年度日本語指導支援推進校事業

# 実践報告集

平成 29 年 3 月

兵庫県教育委員会



# 目 次

## はじめに

### 1 本資料について

- (1) 日本語指導支援推進校事業について . . . . . 1
- (2) 本資料の活用について . . . . . 1
- (3) 個別の指導計画（年間指導計画） . . . . . 2

### 2 日本語指導について

- (1) 日本語指導とは . . . . . 2
- (2) 外国人児童生徒のためのJ S L対話型アセスメントDLA . . . . . 2
- (3) 特別の教育課程 . . . . . 2
- (4) J S Lカリキュラム . . . . . 3

### 3 各校の実践報告

- A 日本語指導
  - A-1 . . . . . 4
  - A-2 . . . . . 8
  - A-3 . . . . . 14
- B 国語
  - B-1 . . . . . 16
  - B-2 . . . . . 23
  - B-3 . . . . . 28
- C 算数・数学
  - C-1 . . . . . 30
  - C-2 . . . . . 34
  - C-3 . . . . . 36
- D その他
  - D-2 . . . . . 40
  - D-3 . . . . . 42

### ◇ 参考 . . . . . 48

- 1 個別の指導計画（年間指導計画）
- 2 J S L参照枠（全体）とDLA（4技能）の評価例
- 3 日本語習得度チェックシート（試案）…4つの力と文法のレベル

## はじめに

グローバル化が進展する中、兵庫県には現在、99,938人（平成28年6月末現在）の外国人の方々が暮らしています。公立学校に在籍する外国人児童生徒数は3,206人であり、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は967人（平成28年5月1日現在）で、近年増加傾向にあります。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる課題として、「生活言語は習得できても学習言語が理解できないために授業が分からない」「生活習慣や文化の違いから、日本の学校生活に慣れず、孤立したり不登校傾向になったりする」などがあります。このような状況のなかで、自尊感情やアイデンティティが育まれにくいという問題や、基礎学力が十分定着しておらず、進路に影響する問題などが生じています。

兵庫県教育委員会では、平成12年に「外国人児童生徒にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に国籍や民族等の「違い」を「違い」と認め合い、豊かに共生しようとする意欲や態度を育むなど、人権尊重を基盤に多文化共生社会の実現をめざす教育を推進しています。

本年度からは、県立神戸甲北高等学校、県立芦屋高等学校、県立香寺高等学校の3校において、外国人生徒の特別枠選抜を設けるとともに、小学校・中学校段階で、日本語（生活言語・学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、「日本語指導支援推進校事業」を実施しています。現在、日本語能力向上のため、3市（姫路市、芦屋市、三木市）11校に日本語指導支援員を派遣しています。今後も日本語指導支援員の指導力向上をめざし、研修等において指導内容や指導方法の工夫・改善を図りながら、さらに事業を充実させていきたいと考えています。

本資料は、平成28年度の日本語指導支援推進校の実践を抜粋してまとめたものです。各学校における日本語指導の充実に大いに活用されることを期待しています。

平成29年3月

兵庫県教育委員会

# 1 本資料について

## (1) 日本語指導支援推進校事業について

兵庫県教育委員会は、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対し、実態に応じた日本語指導を推進し、日本語（生活言語、学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、日本語指導支援員を派遣する市町に対して、経費の一部を補助する事業を実施しています。

平成 28 年度は、姫路市、芦屋市、三木市が実施しています。そこで、日本語支援員が派遣されている日本語指導支援推進校の実践を抜粋し、本資料にまとめました。なお、本資料に掲載されている事例については、その他の実践事例とともに子ども多文化共生センターのホームページにも掲載しています。

## (2) 本資料の活用について

日本語指導を行うためには、日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況を把握し、個別の指導計画等を作成し、系統的・継続的な支援を行うことが大切です。そこで、各推進校は、「外国人児童生徒のための J S L 対話型アセスメント D L A」（平成 26 年、文部科学省作成）や「日本語習得チェックシート」（平成 23 年、兵庫県教育委員会）等を用いて日本語能力測定を実施し、その結果を踏まえて日本語指導や教科指導を行っています。

以下の表は、児童生徒の日本語習得状況と領域（日本語指導及び教科）を示しています。各推進校の実践を、表により分類をしていますので参考にしてください。

日本語の学習段階	日本語能力の把握の方法		領 域			
	D L A (ステージ)	チェックシート (レベル)	A 日本語指導	教 科		
				B 国語	C 数算 学数	D その他
学習段階 教科につながる	6	5	A-3	B-3	C-3	D-3
	5					
初期の後期段階	4	4	A-2	B-2	C-2	D-2
		3				
	3	2				
		1				
初期の前期段階	2	1	A-1	B-1	C-1	D-1
	1					

## (3) 個別の指導計画（年間指導計画）

個別の指導計画では、個の日本語習得状況に応じて「技能別（聞く・話す・読む・書く等）」及び「各教科」の日本語指導の目標を学習段階や單元ごとに設定しています。各学校における指導計画の作成時に参考としてご活用ください。なお、文部科学省のホームページにも様式が掲載されております。

## 2 日本語指導について

### (1) 日本語指導とは

児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的としています。

#### ア 「日本語を用いて学校生活を営む」ことができる

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身につけることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉（※「サバイバル日本語」と呼ばれることがあります。）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

具体的には、挨拶の言葉や実際の場面で使用する日本語の表現を練習したり、自分の名前を平仮名や片仮名で書いたり、教室に掲示されている文字を理解できるようにしたりすることなどが考えられます。

#### イ 「日本語を用いて学習に取り組む」ことができる

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、児童生徒の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画をたてる必要があります。

### (2) 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA

日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とし、言語能力を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための資料として開発されました。

いわゆる従来型の紙筆テストや集団テストとは異なり、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。そのため、テストの実施を指導者が児童生徒に向き合う大切な機会（対話重視）であるとし、「対話型」を基本としています。指導者と子どもが対面で向き合うことで、日頃の学習の成果や今後の支援活動で必要となる学習内容・学習領域を絞り込んでいく上で、必要な情報を得ることができます。

### (3) 特別の教育課程

帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導を一層充実させるため、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、当該児童生徒の在籍学級以外の教室で行われる指導について「特別の教育課程」を編成・実施することができるようになりました。

「特別の教育課程」による日本語指導は、児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とし、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行います。

#### (4) J S Lカリキュラム

J S L (Japanese as a second language) カリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動についていけない外国籍の（日本語を第二言語とする）生徒の授業に参加するための日本語の力と学ぶ力（「日本語で学ぶ力」）を育成することを目的としたモデル・カリキュラムです。

平成 15 年度に小学校編、平成 18 年度に中学校編が文部科学省から刊行されています。

### ■参考資料

#### 1 文部科学省

海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ

『CLARINET へようこそ』[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet)

#### 2 子ども多文化共生センター（兵庫県教育委員会）

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

### 3 各校の実践報告



## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：A-1】

#### 1 児童の日本語習得状況（平成28年7月1日）

●DLA	ステージ1
------	-------

#### 2 児童の実態

- ①学年（小）：第1学年
- ②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③在留期間：17ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

家庭ではベトナム語で生活しており、日本語に触れる機会は学校に限られているため、語彙が増えていかない。何とか平仮名の読み書きができるようになってきたが、片仮名や漢字は厳しい状況である。家庭学習ができないため長期の休みが入ると学習内容が定着しない。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導（JSL国語科）「おとうとねずみ チロ」

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・教科の目標：人物のしたことや様子を考えながら読む  
お話を読んで、人物の好きな所を見つける
- ・日本語の目標：人物がしたことがわかる

#### 5 指導内容の概要

- ・漢字かな交じり文が一人では読めないのので、指でたどりながら範読の後続いて読ませる。
- ・挿絵を使ってお話の順番を理解させ、登場人物のせりふや動作から心情に迫らせる。

※別紙参照

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

（工夫点）

- ・挿絵を使った。
- ・登場人物になって役割読みをした。
- ・範読時には必ず、指でたどることを約束している。

（成果）

- ・教科書の挿絵や黒板の絵を使うことにより場面を想像することができ内容の理解ができたようである。
- ・範読や役割読みにより、場面を想像しながら楽しんで物語に触れることができた。

## 7 教材・教具

- ・国語の教科書
- ・挿絵
- ・文字カード

## 8 活動の様子



(別紙)

第1学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導案

1. 単元 「おとうとねずみ チロ」

2. 対象児童の実態

(1年生) A児 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) ベトナム生まれ5歳で渡日	
経験知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校入学前の年にベトナムから渡日し保育所に入所。日本語での日常会話がまだ 十分できない。</li><li>・家庭では、ベトナム語を使い生活しているので、日本語に触れる機会はおもに学校生活の中に限られている。</li></ul>
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話が少し理解できるようになってきたが、平仮名、片仮名の読み書きが完全にはできない。</li><li>・日本語の文章を指でおさえながら読んでも意味はわからない。聞き取りも十分ではない。</li></ul>

3. 単元設定の理由とねらい

A児は1年生の2学期になって毎日、国語科と算数科の時間に取り出し指導を別室で受けている。教科書に沿って教室での学習内容をやさしい言葉を使って説明し、わかりにくい言葉や漢字等の学習や語彙習得のための日本語学習をしているが、まだ平仮名や片仮名の読み書きが完全にはできない。

楽しい物語文を繰り返し声に出して読んだり書いたりしながら日本語に親しみ、内容を理解し自分の考えを言葉で表現することができると考え、本単元を設定した。

4. 目標

国語科	<ul style="list-style-type: none"><li>・人物のしたことや様子を考えながら物語を読む。</li><li>・お話を読んで、人物の好きな所を見つける。</li></ul>
日本語	<ul style="list-style-type: none"><li>・人物がしたことがわかる。</li><li>・「どこで、だれが、どうしました。」が言える。</li><li>・文章が読める。</li></ul>

5. 活動形態 : 取り出し個別指導(ワールドルームにおいて)

6. 言語事項(語彙・表現) : 語彙 ある日、きょうだい、チョッキ、いいかえす、手が見、おか、のぼる、てっぺん、むこうがわ、ひびく、うれしがる、とびはねる、あむ、耳をすます、こづつみ、しま  
表現 どこで、だれが、どうした

7. 準備物 : 挿絵、ワークシート、ホワイトボード

8. 本時の目標

登場人物を確かめ、場面ごとにチロの様子をおさえながら読む。

(ターゲットセンテンス)

- ・どこで、だれが、どうしました。

9. 学習活動 (全体の時間数 17時間 本時 13/17時)

展開	児童の活動	AUと日本語表現	教師の支援 日本語の理解や表現を促す支援(☆)
体験	1 本を読む。	A-1: 知識を確認する	1 文字を指さしながら読めているか確認する。 ☆ ねずみの兄弟の会話の部分がわかるように指でおさえながら、チロの所はお面をかぶって読ませる。
探求	2 絵を見て内容を考える。	E-5: 資料を選択する	2 黒板に教科書の絵を並べて場面の順番がわかるようにする。 ☆ お話の順番が視覚でわかるように絵を用意する。
発信	3 場面ごとにまとめる。  4 言葉で説明する。	K-6: わかったことを表現する  どこでだれがどうした	3 絵を見て言葉で説明することができるようにする。 ☆ ワークシートを準備して、場面の様子を口の中に書き込むことができるようにする。  ☆ ワークシートを見ながら、場面ごとに「どこで、だれが、どうしました。」の順で言えるように支援する。
まとめ	5 ひらがなカード取り	A-1: 知識を確認する	4 既習文字の確認をする。 ☆ ひらがなカード取りゲームをし、覚えた文字の定着を図る。

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：A-2】

### 1 児童の日本語習得状況（平成28年10月3日）

●日本語習得チェックシート	レベル2
---------------	------

### 2 児童の実態

① 学年（小）：第1学年

② 国籍及び母語：シリア アラビア語

③ 在留期間：12ヶ月

④ 日本語習得状況及び学習状況

- ・日本の生活に慣れてきた。教師の話聞いて理解しながら行動できるようになってきた。意思疎通に必要な最小限の生活言語は話せるが自分の思いは表現しにくい。自分の思いを文章で表現することは難しい。
- ・文字を読むことはできるが、意味まで理解することは難しい。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○ひらがな、カタカナ、漢字などの練習プリント。

○「たぬきの糸車」

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・場面の様子を想像し大きな声ではきはきと発音しながら読む。
- ・本文を正しく丁寧に視写し、内容を理解する。場面の情景や登場人物の心情を理解する。
- ・絵カードなどを使って言葉と実物との一致を図る。

### 5 指導内容の概要

- ・絵カードやジェスチャーを取り入れて指導

※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・絵やカード、本、写真、実物等を活用し、言葉を正しく理解させる。
- ・ゆっくり、大きく口を開けて、ジェスチャーなどを交えながら指導する。
- ・少しずつではあるが、日本語の理解が進んでいる。

### 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・ひらがな、カタカナ、漢字の表や文字プリント。
- ・本（図鑑）や写真など。

(別紙)

1 本時の学習

(1) ねらい

○文字に親しみ日本語を進んで使おうという意欲を育む。

○「たぬきの糸車」の文を読む。

(2) 展開

学習活動・発問	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
1 本時の課題を確認する。	・声に出して板書を読む。	・学習課題を板書する。
2 本文を読む。 ・読点切り ・句点切り ・一文	・「キークル クル」は、声がそろいそう。 ・イとウの発音を間違えるかもしれない。	・大きな声でゆっくり、はっきりと分かるように問いかける。 ・児童が発声をする機会を多くとる。 ・上手に読めたら賞賛する。 ・読みを否定しない。
3 本文を視写する。 ・一文～二文 ・漢字	・よく見て、ていねいに視写する。 ・行をとばす。 ・文字が抜ける。 ・正しく書く。 ・とめ、はね等に気をつける。	・よくできているところに○印をつけ、やる気を伸ばす。 ・筆順に気をつけ、鏡書きで2文字書く。
4 □の中を予想しながら読む。 ・空きを補いながら一文を読む。 ・友だちの読みを聞く。	・ひらがなだけを読み進める。 ・ノートを見て、読む。	・聴き方を評価する。
5 本時の学習についてふりかえる。	・自分が頑張ったところや努力したところを述べる。	・一人一人の頑張りを具体的に評価して終わる。

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：A-2】

#### 1 生徒の日本語習得状況（平成28年7月1日）

●DLA	ステージ3
------	-------

#### 2 生徒の実態

- ① 学年（中）：第2学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③ 在留期間：19ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
  - ・漢字などは小学4年生程度まで習得できているが、難しい漢字などは書くことが困難である。
  - ・日常会話については、支援を得てある程度までは理解できるが、在留期間が短いこともあり、流暢さに欠ける。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導：イ形容詞・ナ形容詞を活用し、スムーズに会話する

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

イ形容詞・ナ形容詞の様々な使い方を理解・習得し、会話や文の中で使うことができる。

#### 5 指導内容の概要

- ・一度に複数の品詞を出すと理解しにくいので、品詞別に繰り返し練習してから複数の品詞の混合練習をさせる。
- ・身近な内容について、読むこと・書くこと・話すことを習得させる。

※別紙参照

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

##### 工夫点

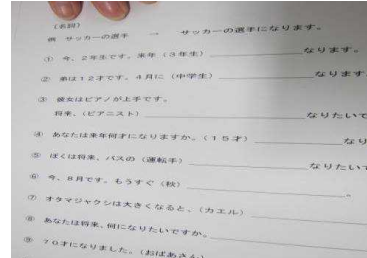
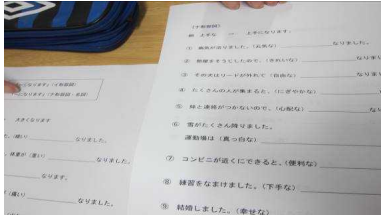
- ・難しい表現は、ベトナム語に訳したり、わかりやすく発音したりするように努めた。
- ・変化の過程など絵を見せたりジェスチャーで表現したりした。
- ・日常会話で活かせるよう、会話形式でも練習した。
- ・言い間違えた時は、その都度正しく直して練習させるようにした。
- ・日常生活でよく使う言葉を使って、イメージしやすいようにした。
- ・その都度ベトナム語ではどうなのか聞くことにより、日本語の意味を理解しやすいようにした。

## 成果

- ・ 流暢とまではいかないが、間違った使い方が減り、以前より会話がスムーズになった。

## 7 教材・教具

- ・ こどものほんご2（ひょうご日本語教師連絡会議 子どもの日本語研究会著）
- ・ 自作プリント「形容詞」

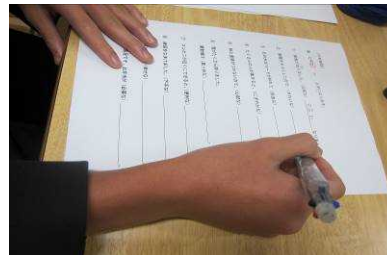


## 8 活動の様子

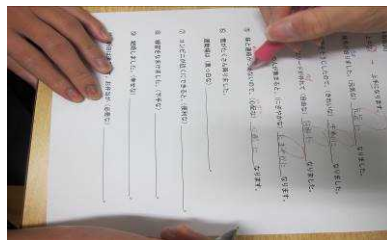
- ・ 初めに前時の復習をすることにより、忘れかけていたイ形容詞やナ形容詞の活用の仕方を思い出させた。日常生活でよく使う言葉や、部活動に関する語句を入れた練習問題は、イメージしやすいようであった。（写真1）



- ・ プリントの漢字「上手」を「へた」と読み間違えたが、その後、意味を推測して「じょうず」と読み直すことができた。これまでの学習の成果が見られた。（写真2）



- ・ 読めない漢字にはルビ打ちをして、ベトナム語辞典で意味を調べさせた。ベトナム語ではどう言うのかも発音させ意味を理解させた。また、漢字学習も合わせて行った。（写真3）



- ・ 変化の過程などは絵を見せたり、ジェスチャーをして見せたりすると理解できた。写真4は「日がしずむと暗くなりました」の文の「日がしずむ」様子を絵を見せて、説明している場面。（写真4）



- ・ 現在形「～なります」と過去形「～なりました」の誤用があったが、前後の文章から判断して、言い直すことができた。反復練習をすると、すらすらと言えるようになった。



(別紙)

## 日本語指導学習指導案

### 1. 題材

「イ形容詞・ナ形容詞を活用し、スムーズに会話する」

### 2. 生徒の実態

在留期間が19ヶ月と短く、これまでの生活で日本語での身近な日常の会話は、支援を得てある程度理解して聞くことができる。また、簡単な文章も書けるが、話すことに関しては流暢度が低い。理由の一つに、形容詞や動詞などの活用が難しいと考えられる。そのため、形容詞などの活用の仕方を繰り返し学習し定着させ、自分の意志や相手に伝えるべき内容を日本語で表現できるようにさせたい。

### 3. 目標

日常生活でよく使われる語彙や表現を使って流暢に会話ができる。

### 4. 指導計画（4時間）

第1時 「～とき」（イ形容詞・ナ形容詞・動詞・名詞）

第2時 「～くて～」（イ形容詞＋形容詞）

「～で～」（ナ形容詞＋形容詞）

第3時（本時）「～くなります」（イ形容詞）

「～になります」（ナ形容詞・名詞）

第4時 「～かった」「～くなかった」（イ形容詞）

「～だった」「～じゃなかった」（ナ形容詞・名詞）

### 5. 本時の目標

イ形容詞・ナ形容詞・名詞を「～くなります」「～になります」と活用させ、流暢に話すことができるようになる。

### 6. 準備物

復習プリント、本時のプリント、ベトナム語辞書、絵、形容詞一覧表

### 7. 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1. 前時の復習をする。 「イ形容詞のイを取る＋くて～」 （暗くてこわい） 「ナ形容詞のナを取る＋で～」 （元気で明るい）	・活用の仕方を思い出させる。 ・例文をいくつか挙げ、スムーズに活用できるようにする。	復習プリント  形容詞一覧表

2. 本時の課題を把握する。		
<p>「イ形容詞のイを取る＋くなります」例：大きくなります  「ナ形容詞のナを取る＋になります」例：上手になります  「名詞＋になります」例：サッカーの選手になります</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イ形容詞、ナ形容詞の活用の仕方を練習し、音読する。</li> <li>・会話練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの品詞に分けて繰り返し練習させる。</li> <li>・日本語の意味が分かりにくい言葉は、ベトナム語に訳したり、変化の過程を絵で見せたり、ジェスチャーを加えたりする。</li> <li>・初めはゆっくりと復唱させ、慣れてきたら自分で読ませる。</li> <li>・身近な日常生活によく出てくる内容で練習させる。</li> <li>・次時も引き続き、イ形容詞、ナ形容詞について学習することを確認させる。</li> </ul>	<p>本時のプリント ベトナム語辞書  絵</p>
3. 本時の振り返りをし、次時の学習予定を知る。		

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：A－3】

### 1 児童の日本語習得状況（平成28年6月10日）

●日本語習得チェックシート	レベル5
---------------	------

### 2 児童の実態

- ① 学年（小）：第4学年
- ② 国籍及び母語：日本、英語
- ③ 在留期間：113ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

学習に対する意欲が高く、授業においても積極的に発表している。しかし、理解に時間がかかったり、不安になったりすることがあるため、机間指導の際は必ず声掛けをして確認する必要がある。特に算数については、学習言語の習得に苦労している。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名） ○日本語指導 「熟語のひみつをさがろう」

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・漢字の音訓を理解し、熟語の成り立ちを理解する。
- ・国語辞典で熟語の意味を調べることができる。

### 5 指導内容の概要

- ・熟語の漢字の訓読みから、熟語の意味を想像する。
- ・熟語後の意味を国語辞典で調べる。
- ・熟語を4つのグループに分類する。

※別紙参照

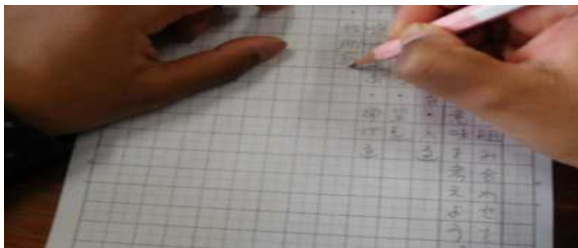
### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・自分の国語辞典を使い、調べた言葉に付箋を貼って学習意欲を高めている。
- ・練習問題を容易に解くことができた。

### 7 教材・教具

- ・国語辞典と付箋
- ・熟語カード

### 8 活動の様子



（漢字の訓読みを挙げ、意味を想像する。）



（熟語の意味を国語辞典で調べる。）

(別紙)

○ 指導内容の概要

学習活動	教師の支援	児童の状況
1 熟語を読む。	○熟語カードを作成する。 「木刀」「戸外」 「流星」「竹林」 「多数」「温水」	・間違えずに声に出して読める。
2 各漢字の訓読みを挙げ、意味を想像する。	○児童が覚えていない漢字を確認する。	・反対の意味を持つ漢字の組み合わせについて理解が進み、意欲的に列挙した。
3 熟語の意味を国語辞典で調べる。		・どんどん調べて付箋が増えた。
4 熟語における漢字の組み合わせを手掛かりに熟語を分類する。 ①似た意味 「加入」「願望」「救助」 ②反対の意味 「高低」「勝敗」「売買」 ③上の漢字が下の漢字を修飾する。 「清流」「前進」「花束」 ④「-を」「-に」に当たる意味の漢字が下に来る。 「消毒」「読書」「帰国」	○4つの分類を意味から類推させる。 ○熟語カードを使って4つに分類させる。 ○「上の漢字と下の漢字が反対の言葉になっているのはどれかな」 ○「上の漢字があることで下の漢字のことが詳しくなるのはどれかな」	・②や③は、容易であるが、①で迷うことがあった。 ・④では、文になることに注目させたかったが、初めは戸惑った様子であった。

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：B-1】

### 1 児童の日本語習得状況（平成28年7月19日）

●DLA	ステージ1
------	-------

### 2 児童の実態

- ①学年（小）：第1学年
- ②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③在留期間：77ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況
  - ・文字の読み書きで支援が必要である。
  - ・あいさつや繰り返し使う表現が使える。
  - ・支援があれば簡単な指示を聞き、理解できる。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：「じゃんけんやさん」をひらこう

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・絵や身振りの支援を得て、普通の速さの話聞いて大体理解することができる。
- ・学習場面で必要となる要求表現等を、簡単な日本語で伝えることができる。

### 5 指導内容の概要

- ・自分が書いた原稿をもとに、友だちへの説明の仕方を考え、発表する。
- ※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・さまざまな国のじゃんけんを紹介することで興味をもって取り組めた。
- ・原稿を穴埋めにするすることで、書くときの支援となった。
- ・自分が考えたじゃんけんの説明を繰り返し練習することで、自信をもって発表できた。

### 7 教材・教具

- ・教材 新編あたらしいこくご（東京書籍1年下）
  - 「じゃんけんやさん」をひらこう
  - どくしょのへや じゃんけん
- ・教具 三すくみの関係を表した図（右図参照）





(別紙)

## 第1学年 国語科学習指導案

### 1. 単元 「じゃんけんやさん」をひらこう (東京書籍 1年下)

### 2. 本グループの児童の実態

これまでに「話すこと・聞くこと」の単元において、みんなの前で簡単な組み立てに沿って話すことを学習してきている。さらに、一対一で友達と対話し、相手の話をよく聞いて質問し、質問をよく聞いて応答することも経験し、話し手を見て、しっかりと話を聞いている児童が増えている。また、手を挙げて発表することや、休み時間には教師や友達に面白い出来事を話すことが大好きな児童が多い。しかし、説明が不十分であったり話す順序が間違っていたりするため、上手く伝えることのできない児童もいる。

### 3. 単元目標

○新しく考えたじゃんけんの仕組みや遊び方について、順序よく説明することができる。

### 4. 学習計画 (全10時間)

第一次 学習の見通しを持とう . . . . . 1時間

第1時 新しいじゃんけんを作って教え合うという課題を確かめて、学習の見通しを立てる

第二次 じゃんけんの仕組みを確かめよう . . . . . 1時間

第1時 じゃんけんの仕組みを、「使うもの」「勝ち負けの仕組み」「身振り」の三つの観点で確かめる

第三次 新しいじゃんけんを考えよう . . . . . 2時間

第1時 三つの観点に沿って、新しいじゃんけんを考える

第2時 「じゃんけんやさん」で説明するじゃんけんを決めて、説明で使う図を画用紙に描く

第四次 じゃんけんを教える練習をしよう . . . . . 3時間

第1～2時 説明する順序に沿って原稿を書く

第3時 原稿をもとに説明する練習をする (本時)

第五次 「じゃんけんやさん」をひらこう . . . . . 3時間

第1～2時 店の人や客になって、新しいじゃんけんについて説明したり説明を聞いたりする

第3時 友だちに分かるように、大事なことを順序よく話すことができたか振り返りを行う

### 5. 本時の学習 (第四次 第3時)

#### (1) 目標

○新しいじゃんけんを教える練習を通して、大事なことを分かりやすく説明することができる。

(2) 展 開

学習活動	支援と指導（●は評価）	備考
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>・説明するときの言葉について、確認する。</p>	
<p>ともだちに わかりやすく せつめいしよう。</p>		
<p>2. じゃんけんを教える練習をする。</p> <p>(1) 原稿を読む練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の人に聞こえる声で話す。</li> <li>・はっきりと口を開けて話す。</li> <li>・ゆっくりと話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に良い例を行わせ、教師が悪い例を示すことにより、適当な声の大きさや話し方、話す速さを理解させる。</li> <li>・机を挟んで一対一で向かい合い、声の大きさや話し方、話す速さが適当かどうかをお互いに確かめさせる。</li> <li>・じゃんけんの身振りをつけ、聞き手を見て話ができている児童をとり上げて、全体に広める。</li> </ul>	<p>原稿</p>
<p>(2) 「じゃんけんやさん」の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんの身振りをつける。</li> <li>・聞き手を見て話す。</li> <li>・図を使って説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なことを落とさず、原稿に整理した順序に沿って話すことができれば、原稿通りの言葉でなくてもいいことを伝える。</li> <li>・じゃんけんの身振りをつけ、図を指し示しながら説明することで、必要な事柄を落とさずに分かりやすく伝えることを理解させる。</li> <li>・一対一でお互いの説明を聞き合って、良かったところやもっと工夫するとよいところを伝えるようにさせる。</li> <li>・説明することに困っている児童には、適宜声をかけ、自分の言葉で説明するように促す。</li> <li>・聞き手に伝わるように分かりやすく説明できている児童をとり上げ、全体に広める。</li> <li>●聞き手に伝わるように分かりやすく説明している。</li> </ul>	<p>ICT 機器</p> <p>図</p>
<p>3. 話すときに気を付けることを確かめて、本時の学習を振り返る。</p>	<p>・本時の振り返りとして「じゃんけんやさん」で話すときに気を付けることを発表させることで、次時への意欲づけを図る。</p>	



# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：B-1】

### 1 児童の日本語習得状況（平成28年6月29日）

●日本語能力評価（JSL評価参照枠から抜粋）	3・2・1・2
------------------------	---------

### 2 児童の実態

- ① 学年（小）：第2学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③ 在留期間：94ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

まだ上手く発音できない言葉もあるが、日常会話は普通にできている。しかし、ひらがな、カタカナ、漢字等の読み書きが十分とは言えず、音読もただどしく言葉の意味もつかみにくい。上手く発音できない言葉は、そのまま文字にすることがある。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：漢字の読み、音読

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・日本語の言葉に慣れ親しむ。
- ・漢字の読み書きができる。

### 5 指導内容の概要

※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

（工夫点）

- ・国語の教科書の単元ごとに丸読みしたり、役割を決めて繰り返し読んだりする練習をし、スラスラ読めるようにする。
- ・各単元で使われている漢字をプリントで練習し、読んだり書いたりできたりするようにする。
- ・発達段階が適当と思われる本を読み聞かせ、日本の言葉や習慣に親しみをもてるようにする。

（成果）

- ・漢字の読みについては、真面目に取り組み、読めるようになってきた漢字も増えてきた。しかし、音読はまだただどしく、さらに繰り返し読むことで、音読の力もついてくるものと思われる。
- ・漢字を読むことができて、それに長音や促音、拗音が入ってくると正しく表記することが難しい。
- ・曜日は全部読むことができるが、特別な読み方の日にちや、数の数え方が習得できていない。しかし、繰り返し練習することで身に付いていくと思われる。

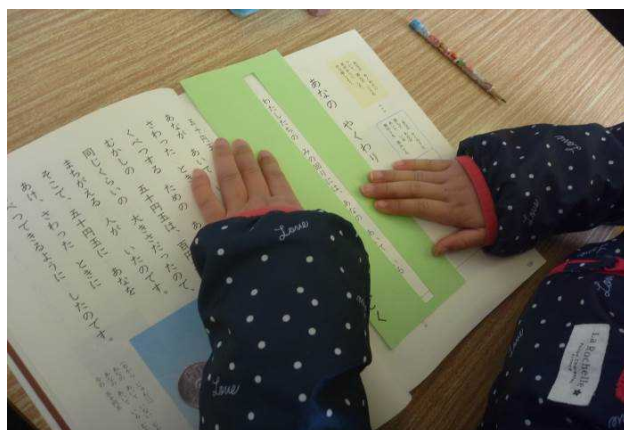
7 教材・教具  
【自作のプリント】



8 活動の様子  
《学習の様子》



《音読定規を使って読む練習》



(別紙)

○指導の流れ

学習活動と児童の思考・意識	教師の支援（・）と評価（◇）
<p>1. 所属のクラスで学習しているところを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・丸読みをしたり、役割読みをしたりして繰り返し読む。</li><li>・長音、促音、拗音に気を付けて読む。</li></ul> <p>2. 漢字プリントにある漢字を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・既習の漢字も含め、何も見ずにどれだけ自分の力でできるか、正確さを意識して書く。</li></ul> <p>3. 曜日、日にち、数の数え方をカードとプリントで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・カードを使い、順番に読んだりランダムに読んだりする。</li></ul> <p>4. 絵本の読み聞かせを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・好きな絵本を選び、教師の読み聞かせを聞く。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・読みにくい場合、教師がゆっくりはつきり発音して手本を示し、その後読ませる。</li><li>・読めなかった漢字は、音読が終わった後、再度読ませ、それでも読めなかった漢字についてはルビを振るようにする。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・読めない漢字は教師が読み、手本を示した後、読ませる。</li><li>・書けなかった漢字は、3回以上練習させ、書けるようにする。</li></ul> <p>◇スラスラ読めるようになったり、既習の漢字が読み書きできるようになったりしたとき、その都度ほめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・読めなかったものは、繰り返し練習させる。</li></ul> <p>◇読めなかった漢字が読めるようになったときは、その都度ほめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・読むことはできるが、正しくひらがなで書いたり漢字を書いたりすることが困難な場合は、抜き出してその語句について繰り返し練習させる。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・好きな絵本を選ばせ、興味を持って聞くことができるよう配慮する。</li></ul> <p>◇興味を持って聞くことができる。</p> <p>◇読書に興味を持つことができる。</p>

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：B-2】

#### 1 児童の日本語習得状況（平成28年7月15日）

○日本語習得チェックシート	レベル 1
---------------	-------

#### 2 児童の実態

- ①学年（小）：第1学年
- ②国籍及び母語：ペルー、スペイン語
- ③在留期間：19ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

学年相当の日本語語彙力が不十分なため、話の内容を誤って解釈するところがあるが、母語で説明をすると十分に理解できるので、母語力を保持しつつ日本語を習得していく必要がある。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導：ことばと文  
読む・書く力をつける。

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・教科の学習に役立つ日本語を習得する。
- ・外国籍児童が苦手とする「ものの数え方」「助詞の使い方」などを覚える。

#### 5 指導内容の概要

##### (1) 助詞の使い方

- ・始めに音読をして、問題の意味が理解できているか確認する。
- ・理解できていない部分に関しては母語で説明をする。
- ・名詞のあとにつく「は」「へ」「を」と、名詞や形容詞に「わ」「は」「お」が入っている場合混乱しないか気を付ける。混乱した場合、解りやすく説明する。

##### (2) 物の数え方

- ・イラスト入りのプリントなので、物を数えるだけで終わらせないようにする。
- ・枚、冊、台、人などが使い分けられるように繰り返し練習する。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

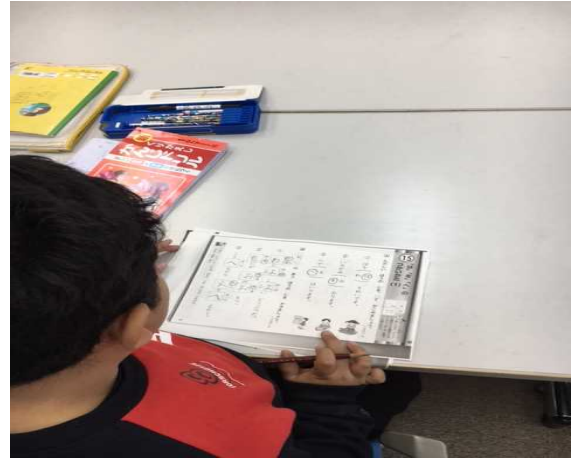
日本語よりも母語で支援することで理解ができていたので、母語を使いながら支援した。母語で話すことによって、児童が安心して質問したり、疑問に思っていることをスムーズに伝えたりすることができた。日本語学習では、教科につながる内容の教材を使用した。

#### 7 教材・教具

小学1年のことばと文（学研）

## 8 活動の様子

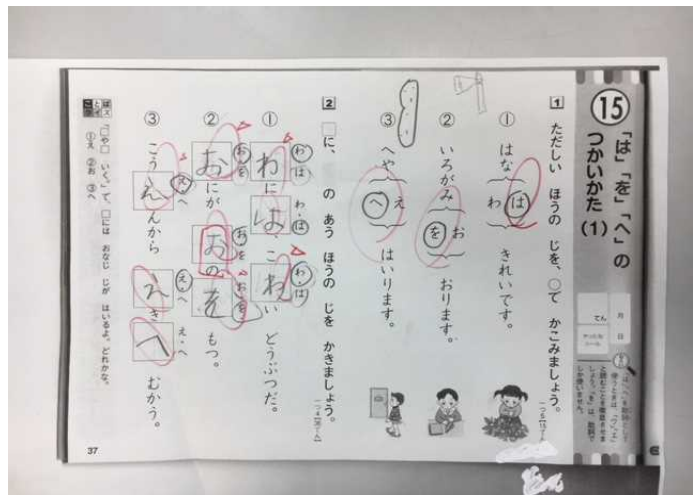
- ・ 助詞「は」「を」「へ」の使い方の学習
- ・ 書いてある意味を理解しているかどうかを確認



### 1 全問正解

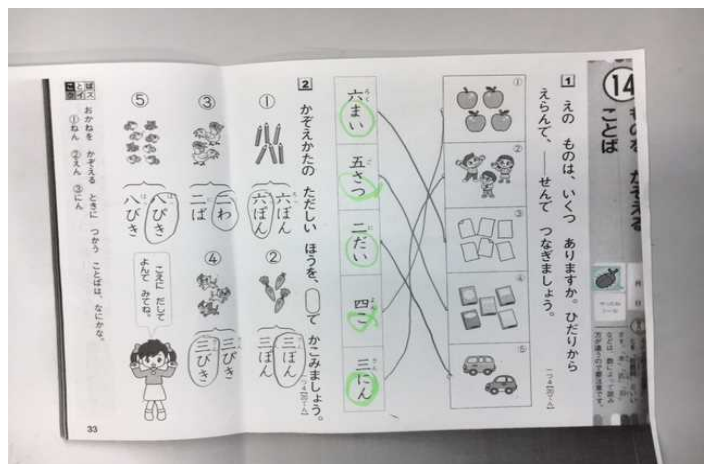
2 「わ」と「は」、「へ」と「え」、「お」と「を」の使い方の間違いが多い。

- ・ 助詞だけではなく、名詞や形容詞が混ざっていると分かり難いようだ。
- ・ ②おにが おのをもつ。  
おのの意味が理解できていなかった。



### ・ ものの数え方

母国語にはないので、区別し理解するまでに時間がかかる。身近にあるものは興味を示して覚えようとするが、頻繁に使わないのですぐ忘れる。定期的に練習する必要がある。



# 日本語指導支援推進事業 実践報告書

## 【領域：B－2】

### 1 児童の日本語習得状況（平成28年6月15日）

●日本語習得チェックシート	レベル2
---------------	------

### 2 児童の実態

- ① 学年（小）：第2学年
- ② 国籍及び母語：フィリピン、ビサヤ語
- ③ 在留期間：9ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

来日して間がないため、簡単なあいさつができたたり、物の名前が言えたりする程度である。文字が読めても文章の内容を理解することが難しい。子ども多文化共生サポーターと役割分担をしながら支援を行っている。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○第2学年国語 音読劇をしよう 「お手紙」

### 4 本単元の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。
- ・漢字には複数の読み方があることを理解することができる。
- ・かえるくん、がまくんの気持ちを想像しながら、音読劇で表現することができる。
- ・アーノルド＝ローベルシリーズの本に興味を持ち読むことができる。
- ・発展教材として、「なくしたボタン」の音読劇をすることで、自分なりに音読の工夫ができる。
- ・主述を意識しながら、内容を理解することができる。
- ・場面の読み取りをすることで、悲しい・幸せ・不幸せ・喜ぶ・嬉しい等の気持ちを理解することができる。
- ・挿絵と文章から意味理解ができていくかクイズ形式で問い、自分の言葉で答えることができる。
- ・主述の整ったモデル文を参考にして、日記作文を書くことができる。

### 5 指導内容の概要

#### (1) 学習指導の流れ

- ① 「お手紙」を読む。
- ② 「お手紙」の新出漢字や既習の読みかえ漢字の復習をする。  
（例）「出る」「出す」  
「入る」「入れる」（「人」と形が似ていて読み間違いが多い）  
「かなしい時」「時間」
- ③ 「お手紙」クイズをし、挿絵や文章の言葉を手掛かりに内容のおさえをする。  
・「だれが出てきますか。」

- ・「はじめ、がまくんは、どんな気持ちでげんかんの前ですわっていましたか。」
- ④役割を決め役割読みをする。
- ⑤役割読みをした後の自分の頑張りをワークシートに書き、みんなの前で発表する。
- ⑥アーノルド＝ローベル著の作品の紹介と読書指導をする。

## 6 指導における工夫点・学習の成果

### (1) 工夫点

- ・具体物の提示
- ・児童の実態に合わせた教材の作成と選択
- ・個人指導とグループ学習を取り入れる。
- ・達成感を味わわせる学習を取り入れ、達成できた時は褒める。
- ・日本語学習の中で、日本の文化だけではなく母国の歌や食べ物などについて話す機会を多く持つことで、自信を持たせる。
- ・色々なジャンルの読書教材を用意し、興味がある本を選び読書する時間や読み聞かせする機会を持つ。
- ・買い物学習・「箱の中身はなんですか?」・カルタ等を取り入れることで、生活言語を習得するために楽しい場面の設定をした。

### (2) 学習の成果

- ・学習場面で、質問に答えるだけでなく自分から尋ねたり自分の思いを積極的に話したりできるようになってきた。
- ・日本語指導の時間だけでなく、クラスでもコミュニケーションをとろうとする態度が見られるようになってきた。
- ・家庭学習をしないといけないという気持ちが育ちつつある。
- ・既習の文を自信を持って音読することができるようになった。
- ・拳手して大きな声で発表することができるようになった。
- ・3～5文程度の生活日記を書くことができるようになった。
- ・平仮名・カタカナ・1年生程度の漢字を読んだり書いたりすることができるようになった。

## 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・漢字カード
- ・ホワイトボード（苦手な漢字や言葉を書きとめ、すぐに反復練習）
- ・アーノルド＝ローベル著の「がまくんとかえるくん」登場の本を展示
- ・お面
- ・挿絵

## ◇ その他の日本語活動

### ア 日記指導

- ・主述の整ったモデル分を参考にして、生活作文を書く。
- ・生活作文を友だちの前で発表し、質問や感想を出し合う。

### イ 初期指導

- ・語彙を増やすために、「果物・野菜」「生活道具」「食べ物」「動物」「反対言葉」「平仮名」「カタカナ」カードを活用する。
- ・カルタ取りゲームを通して、日本語の楽しさを味わう。



- ・色々なジャンルの図書から興味がある本を選択し読書する。
- ・「ひらがな」「カタカナ」「漢字」カードの反復練習をする。
- ・簡単な読み取り問題をする。
- ・「にほんご だいすき」の教材を活用し、助詞や動詞の学習をする。

#### ウ 算数指導

- ・繰り上がり繰り下がり計算の反復練習。
- ・かけ算の九九反復練習。
- ・「あわせて」「みんなで」「全部で」「もらうと」「あげると」「食べると」「使うと」「ちがいは」等の言葉に気を付けながら1・2年生の文章問題をする。

(その他の学習指導に使用した教材・教具)

- ・「カタカナ」「ひらが」「反対言葉」「生活道具」「動物」「果物・野菜」「食べ物」カード等
- ・絵辞典
- ・カレンダー
- ・「にほんご だいすき」むぎ書房刊
- ・「かんじ だいすき(一)(二) 国際日本語普及協会編
- ・「日本語学級1・2」凡人社
- ・ブラックボックス「箱の中身はなんですか？」
- ・生活作文のモデル文
- ・買い物学習のための手作りグッズ
- ・九九表





# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：B-3】

### 1 児童の日本語習得状況 (平成28年6月30日)

●日本語能力評価(JSL 評価参照から抜粋)	4・4・4・4
------------------------	---------

### 2 児童の実態

- ① 学年(小) : 第5学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム、ベトナム語
- ③ 在留期間 : 34か月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
  - ・ 日常会話に困ることは、ほとんどない。
  - ・ 語彙量の不足から言葉の意味や使い方が分からないことが多々あり、説明を要する。
  - ・ 自分の思いや考えを、例文を見ながら表現することはできるが、自力では難しい。

### 3 教科:単元名

○国語: 古文に親しもう(東京書籍5年)

※日本語指導: 教科学習で、教師が説明する内容の大筋と流れがある程度理解することができる。

### 4 本単元(本教材)の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

古文とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、現代の自分たちと比べて考えることができる。

### 5 指導内容の概要

・ 枕草子の「をかし」「あわれ」という表現から、昔の人のものの見方や感じ方を理解する。

※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

・ 枕草子とその現代語訳を丁寧に読ませることや説明を加えることで清少納言の世界を感じ取らせた。

・ 好きな季節の良さについて身の回りの事物を取り上げ、文を書くことができた。

### 7 教材・教具

5年国語教科書(東京書籍5年下)

### 8 活動の様子

古文をどこで区切って読むといいかは理解できないようで、音読は苦戦していた。教師の支援で内容の大体は理解できていた。



(別紙)

第5学年 ○○教室 国語科学習指導案

1 単元 古文に親しもう

2 目標 古文とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について現代の自分たちと比べて考えることができる。

3 指導計画(全3時間)

○学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。

「枕草子」第一段を音読し、内容の大体をつかむ。(本時)

○「枕草子」の作者の物の見方や感じ方を知る。

○好きな季節の良さについて事物を取り上げて文章に書く。  
学習を振り返る。

4 本時の学習

(1) ねらい

古文を音読して内容の大体をつかむことができる。

<日本語の目標>

教科学習で、教師が説明する内容の大筋と流れがある程度理解することができる。

(2) 展開

学習活動	支援と留意点	備考
1 学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。本時のめあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・正しく音読することを意識させる。</li><li>・「枕草子」を読んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、自分たちも季節について感じることを文章に書くという学習課題を確かめさせる。</li><li>・「枕草子」の書かれた時代や作者について簡単に説明する。</li></ul>	探検・発見授業で活躍する日本語ことば絵じてん
「枕草子」を声に出して読み、言葉の響きやリズムを味わおう。		
2 「枕草子」を音読し、内容の大体をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"><li>・季節ごとに現代語訳を読んで大体の意味を理解させてから、古文を読ませる。最初は文節ごとに区切って範読し、児童に後を追わせる。</li></ul>	
3 教科書 P192 の解説文を読む。春の良さについて、作者の見方や感じ方と自分のそれとを比べる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・古文の中に出てくる「をかし」「あわれ」等、今の言葉の意味とは違う言葉については、説明をする。</li><li>・作者が時間帯に着目している点や、当時の生活の様子をおさえる。</li></ul>	
4 筆者が季節ごとに良さを感じるもの確かめて、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"><li>・やや長い文章なので、短い区切りでの追い読みを丁寧に行う。</li></ul>	

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：C-1】

### 1 児童の日本語習得状況（平成28年7月19日）

●DLA	ステージ2
------	-------

### 2 児童の実態

- ①学年（小）：第3学年
- ②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③在留期間：104ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況
  - ・日常的な語彙がある程度理解できる。
  - ・身近な日常語彙を使って話すことができる。
  - ・ゆっくりでもだいたいの文節や単語に区切って読める。
  - ・書き方のルールをある程度理解して文を書こうとする。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数：あまりのあるわり算

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・支援を得ながら、わり算の立式をし、数図ブロックを使ったり、九九を使ったりして、答えの求め方を考えることができる。
- ・「わり切れる・わり切れない」という用語を覚え、わり切れないわり算の計算の仕方を、順序立てて日本語で説明することができる。

### 5 指導内容の概要

※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・はじめに、総数を知らせないことで、総数に着目し、興味をもって取り組めた。
- ・数図ブロックを使うことで、問題場面がより理解しやすく、操作しながらできるので、支援も効果があった。
- ・ペアで確かめ合うことで、計算の仕方を、順序立てて日本語で説明できるようになった。

### 7 教材・教具

- ・教材 わくわく算数3上（啓林館）
- ・教具 数図ブロック

## 8 活動の様子

一人では、先生の説明が理解できず、学習活動が遅れることがあるが、支援員が横について補足説明してやると、遅れず取り組むことができた。

教科語彙が分かりにくい様子が見られた時にも説明すると、理解がしやすかった。

発表の時には、一度自分の意見を確認できるので、自信をもって発表できた。



数図ブロックの操作では、最初は難しく感じていた計算も、九九を使いながら、ブロックを動かすことで考えやすくなり、取り組みやすかった。

また、ブロックが余ることが目に見えて分かるので、今までと違う計算になることが、よく理解できた。

ブロックの操作をしながら、「まず」「つぎに」「だから」という言葉を使いながら、順序立ててブロック操作を説明していけるようにした。



ペア交流では、ブロック操作をしながら、相手に分かりやすく、順序立てて伝えられるように支援した。

友だちの考えもしっかり聞いた。



(別紙)

### 第3学年 算数科学習指導案

#### 1 単元名 あまりのあるわり算

#### 2 指導計画 (全9時間)

- 第1時 余りのあるわり算の準備
- 第2時 包含除で余りのあるわり算の意味と計算の仕方 (本時)
- 第3時 除数と余りの大小関係
- 第4時 等分除で余りのある場合のわり算の仕方
- 第5時 余りのあるわり算の答えの確かめ方
- 第6時 練習
- 第7時 余りを切り上げて処理する問題
- 第8時 余りを切り捨てて処理する問題
- 第9時 評価と振り返り

#### 3 本時の学習

##### (1) 本時の目標

- ものを分けるとき余りが出ることもあることを知り、このような計算についてのめあてをもつ。
- 包含除で余りのあるわり算の意味を理解する。

##### (2) 本時の算数的活動 (目標にせまるための言語活動)

- 余りのあるわり算の式表示と商、余りの意味を理解するために、ブロック操作と式表現を関連付ける。

##### (3) 展開

学習活動	指導上の留意点 (●は評価の観点)	備考
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あめを1人に3こずつわけます。何人に分けられますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何個あるの？</li> <li>・ わり算だ。</li> <li>・ 6、9、12…個ならわかる。</li> <li>・ <math>\div 3</math>でできる。</li> <li>・ 3のだんの九九を使うと答えが出る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あめが13個ならどうなるかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>13 \div 3</math>でいいのかな。</li> <li>・ 答は出せるのかな。</li> <li>・ 九九は使えないな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総数を知らせずに問題を提示することで総数に着目させる。</li> <li>・ 何個ならよいか問うことで既習のわり算の場面であることを確認し、式に表させていく。</li> <li>・ 今までの学習の様子をもとに、問題場面が理解できるようにブロック等を用いて個別に支援する。</li> <li>・ 同じ数ずつ分けるのでわり算であることを強調しておく。</li> <li>・ <math>12 \div 3</math>を取り上げ、九九を使って答を出させ、数図ブロックを用いて確認させることで本時の学習の足掛かりとする。</li> <li>・ 九九を順番に言わせ、思い出させる。</li> <li>・ 式を問い、同じ数ずつ分けるのでわり算になることを確認する。</li> <li>・ 「あれっ。」と思うこと、疑問に思うことを出させ、本時のねらいを設定する。</li> <li>・ 分かりにくい時は、補足説明を加える。</li> </ul>	<p>あめが入った袋</p> <p>数図ブロック (提示用)</p>

今までとはちがうわり算について考えよう。

2 課題を解決する。

○個人思考

・13個のブロックを1人に3個ずつ分ける。

・九九を使う。

「三一が3 三二が6  
三三が9 三四12」4  
人で1こあまる。

・4あまり1

○全体交流

・4人に分けられたけど  
1こあまった。

・4あまり1ってどうや  
って見つけるのかな。

・あまりが出るわり算が  
ある。

○あめが14個の場合を  
自力解決する。

・ブロックを3個ずつ分  
ける。

・「三四12」4人で2  
こあまる。

・ $14 \div 3 = 4$ あまり2

○ペアで確かめ合う。

○全体で確かめ合う。

3 学習をふり返りまと  
める。

・わり算には余りが出るこ  
ともある。

・余りがあるときわり切れ  
ないという。

・九九を使って答えが出せ  
る。

・自分なりに数図ブロックを用いたり、九九を使っ  
たりしながら、答の求め方を考えさせる。  
・児童に寄り添い、一緒に3個ずつ順に分けていく。  
・操作の補助をする。  
・机間巡視により、ブロック操作、九九、正答の3  
つの考えを取り上げて黒板上に示させる。  
・自分の考え方を、順序立てて説明できるように支  
援する。

・何人に分けられたかを確認する。  
・黒板に出された考えを見て、質問を出させる。  
・九九を使う考えは取り上げにくいと考える。した  
がって質問が出ない場合は、正答の「4あまり1」  
をどうやって見つけるのかを問い、ブロック操作  
と九九を結びつける。  
・全員に九九とブロック操作を確かめさせる。  
・13個のあめを1人に3個ずつ分けると4人に分  
けられて1個余る、これを式で $13 \div 3 = 4$ あまり  
1と表すことを知らせる。  
・今までのわり算と違うところをはっきりさせ、「わ  
り切れる・わり切れない」という用語を知らせる。

・分かりにくい場合は、意味も確認する。  
・わり切れないことを確認する。  
・13個の時の考えをもとに同じように式にかき、答  
を求めさせる。

・ブロック操作と九九を合わせて答えの求め方を説  
明し合わせた後、全体で確認する。  
・順序よく、分かりやすく説明できるよう支援する。  
●わり算の立式ができ、操作をもとに計算の仕方を  
説明している。

・板書をもとに本時の学習を俯瞰させた後、ノート  
に記述させる。  
・全員に広めたい記述を見つけ、発表させる。  
・まとめを板書する。

数図ブロ  
ック

(児童用)

(提示用)

数図ブロ  
ック

(児童用)

(提示用)

数図ブロ  
ック

(児童用)

数図ブロ  
ック

(児童用)

ノート

数図ブロ  
ック

(提示用)

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：C-3】

### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成28年6月30日）

●日本語能力評価（JSL 評価参照から抜粋）	3・3・3・3
------------------------	---------

### 2 児童生徒の実態

- ① 学年（小）：第4学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③ 在留期間：34か月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
  - ・ 日常会話は、理解できるようになり、困ることも少なくなってきた。
  - ・ 理解できない単語が多く、教材文を読むのは、支援が必要である。
  - ・ 家庭学習の不足により、漢字学習が未定着である。
  - ・ 自分の思いや考えを文に表現することは十分にできていない。

### 3 教科：単元名

○算数：小数×整数、小数÷整数

※日本語指導：「青が黄の何倍かを求めるから青を黄で割ります。 $20 \div 8 = 2.5$  で青は黄の2.5倍です。」など、パターンに合わせて理由が説明できる。

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

小数に整数をかけたり、整数でわったりする計算の仕方を理解し、筆算で計算できるようにする。

### 5 指導内容の概要

※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

テープ図を使って丁寧に指導することで、小数でも何倍かを表すことができることが理解できた。

### 7 教材・教具

4年算数教科書（啓林館4年下）

### 8 活動の様子



(別紙)

第4学年 ○○教室 算数科指導案

- 1 単元 小数×整数、小数÷整数
- 2 目標 小数に整数をかけたり、整数でわったりする計算の仕方を理解し、筆算で計算できるようにする。
- 3 指導計画(全17時間)
  - 小数のかけ算(7時間)
  - 小数のわり算(10時間)
- 4 本時の学習(15/17)

(1) ねらい

小数でも何倍かを表すことができることを理解する。

<日本語の目標> 「○○は～の◇倍です」の言葉の意味を理解し、使えるようになる。

(2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
<p>1 問題を読み、課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">テープの長さを比べましょう</div> <p>① 赤 20 cm 青 10 cm 赤は青の何倍ですか <math>20 \div 10 = 2</math>    <u>2倍</u></p> <p>「○○は～の◇倍」</p> <p>② 赤 16 cm 青 10 cm 赤は青の何倍ですか <math>16 \div 10 = 1.6</math>    <u>1.6倍</u></p> <p>③ 赤 8 cm 青 10 cm 赤は青の何倍ですか <math>8 \div 10 = 0.8</math>    <u>0.8倍</u></p> <p>2 やってみよう 青 20 cm 赤 10 cm 白 16 cm 黄 8 cm 青は黄の何倍ですか 白は青の何倍ですか (学習のまとめ)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">1.6倍や0.8倍のように、何倍かを表す数が小数になることもある</div> <p>3 学習したことを振り返る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">何倍になるかを考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二本のテープの長さの比べ方として、差を比べるのではなく倍の関係を調べることを確認する。</li> <li>・基になるのは、赤と青のどちらなのかを考えさせ、テープ図から何倍になるかを予想させる。</li> <li>・「○○は」「～の」とあれば「～」がもとになることを知らせる。</li> <li>・割り算で求められることを確認し、答えを求めさせる。</li> <li>・赤のテープを16 cmに短くして①と同様に考えさせる。</li> <li>・「○○は」「～の」のどちらが基準になるかを考えるよう支援する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤のテープを8 cmに短くして①と同様に考えさせる。</li> <li>・「○○は」「～の」のどちらが基準になるかを考えるよう支援する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考えさせ、その理由が「青が黄の何倍かを求めるから青を黄で割ります。<math>20 \div 8 = 2.5</math>で青は黄の2.5倍です。」と説明できるように支援する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数倍の表現や意味についてまとめる。</li> <li>・分かったことをノートに書かせる。</li> </ul>	<p>赤・青のテープ</p>



# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：C-2】

### 1 生徒の日本語習得状況（平成28年7月6日）

●DLA	ステージ4
------	-------

### 2 生徒の実態

- ①学年（中）：第2学年
- ②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③在留期間：48ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

日本語の日常会話は十分できるが漢字や難しい言葉は理解しにくい。英語ではベトナム語のアルファベットと英語との混同のため、読みや意味など十分に習得できないでいた。他の教科も理解が困難で十分に力を発揮できないでいる。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○数学：二等辺三角形の性質

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・二等辺三角形の底角は等しいことを理解している。
- ・正三角形の3つの角は等しいことを理解している。

### 5 指導内容の概要

- ・二等辺三角形の頂角の二等分線を引き三角形が合同になることから二つの底角は等しいことを理解させる。
- ・定義について知らせ、二等辺三角形や底角などの意味を理解させる。
- ・正三角形の3つの角は等しいことを理解させる。

### 6 指導における工夫点・学習の成果

定義・底角・定理などの日本語の意味を正しく知り、ベトナム語と比べることによりさらに理解を深めることができた。また二等辺三角形の理解が進むことにより学習の喜びも増し意欲も高まった。

### 7 教材・教具

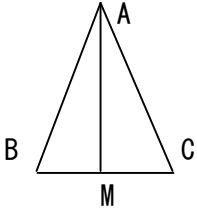
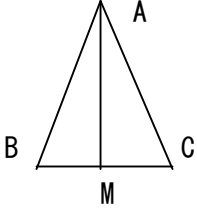
二等辺三角形をコンパスとハサミで作ってみる。

### 8 活動の様子



(別紙)

○指導の流れ

学習活動	・指導上の留意点
<p>1 AB=AC の二等辺三角形で辺 AB と AC を重ね合わせ折ってみるとどんなことがわかるかを調べる。</p> 	<p>・折り重ねることにより <math>\angle B = \angle C</math> となることを実感させる。二等辺三角形のベトナム語を理解させる。</p>
<p>2 二等辺三角形 ABC で <math>\angle A</math> の二等分線 AM を引き <math>\triangle ABM</math> と <math>\triangle ACM</math> が合同であることを証明する。</p> 	<p>・<math>\triangle ABM</math> と <math>\triangle ACM</math> で 2 辺とその間の角がそれぞれ等しいことから合同であることを理解させる。</p>
<p>3 定義の意味を知る。 ○二等辺三角形・底角の「定義」を知る。 ・「2 つの辺が等しい三角形を二等辺三角形という。」 ・「二等辺三角形の 2 つの等しい角を底角という。」</p>	<p>・言葉の意味を決めることを定義ということを知らせ、二等辺三角形・底角の定義を理解させる。</p>
<p>4 定理の意味を知る。 ・証明された事柄を「定理」という。</p>	<p>・「二等辺三角形の 2 つの底角は等しい」というように証明された事柄を定理ということを知らせる。定理のベトナム語を理解させる。</p>
<p>5 正三角形は 3 つの角が等しいことを調べる。</p>	<p>・正三角形で 1 つの辺をかくすことにより 2 つの底角が等しく、同じように他の辺をかくして 3 つの角が等しいことを証明させる。 ・正三角形のベトナム語を理解させる。</p>
<p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>・頂角の二等分線を引いて底角が等しいことを振り返らせる。</p>

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：C-3】

#### 1 生徒の日本語習得状況（平成28年7月4日）

○日本語習得チェックシート	レベル5
---------------	------

#### 2 生徒の実態

- ① 学年（中）：第3学年
- ② 国籍及び母語：日本・パキスタン、英語
- ③ 在留期間：182ヶ月
- ④ 本語習得状況及び学習状況  
日常会話はほとんど理解できている。集団生活経験が少ない。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○数学：1次関数

※日本語指導：座標軸、切片、グラフの傾き、 $y = ax + b$  が示す意味を理解する。

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・1次関数のグラフがかけて、読み取ることができる。
- ・1次関数を使って、問題を解くことができる。

#### 5 指導内容の概要

- ①日本語習熟トレーニング（漢字練習、読み聞かせから言葉の意味を理解する。）
- ②2点の座標が分かっている、直線の式を求める。
- ③直線の式から、グラフをかくことができる。

※別紙参照

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・数学で使用する学習言語の意味を理解し、自分の言葉で説明する。
- ・定規を使用して、正確にグラフをかくことを意識することで、丁寧な作業が理解につながるよう実感することができた。

#### 7 教材・教具

- ・漢字の読み方・書き方シート、「文明の逆説」立原隆著
- ・新しい数学2 1次関数（教科書）

#### 8 活動の様子

日本語のスキルトレーニングは、みんなで知っている知識を出し合い、日本語理解を深めていく学習なので楽しく行うことができている。授業で学習した内容なので、大筋は理解している。例題を丁寧に写すことで、やり方を自分で理解し、言葉に出して説明をすることで定着を図ることができた。

(別紙)

日本語指導学習指導案

本時の目標

- ・ 1次関数のグラフがかけて、読み取ることができる。
- ・ 1次関数を使って、問題を解くことができる。

学習活動	指導の留意点
1 日本語習熟トレーニング	○漢字の読み、言葉の意味を聞く。 ○関連する言葉、対義語、類義語等語彙力を増やすように、発問する。 ○順番に発表できるように配慮する。
2 例題を写しながら、解き方を理解し、自分の言葉で説明する。	○傾き、座標軸、切片など学習言語について確かめる。 ○丁寧に写すように指導する。
3 類題を自分の力で解く。	○例題を参考に、自分の力で解くことができるようにする。
4 1次関数のグラフをかく	○丁寧に書くことができるように指導する。
5 まとめ	○振り返りをかく。自分の言葉で説明する。

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：D-2】

### 1 生徒の日本語習得状況（平成28年7月6日）

●DLA	ステージ5
------	-------

### 2 生徒の実態

- ①学年（中）：第1学年
- ②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③在留期間：104ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

日本語の日常会話は十分できるが漢字や難しい言葉は理解しにくい。教科学習においても理解が困難で、十分に力を発揮できないでいる。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○乾燥した地域の暮らし～アラビア半島での生活～

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・乾燥した地域の暮らしを理解している。

### 5 指導内容の概要

- ・乾燥した地域での生活について調べ、オアシスでの水の利用や周辺での生活、衣服や住宅について理解させる。
- ・水をめぐる生活はどのように変化したのかを理解させる。

※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

ベトナムや日本との気候や生活の違いを正しく知り、アラビア半島での生活を通して乾燥した地域での生活を理解することができた。

### 7 教材・教具

- ・電子黒板
- ・教科書

### 8 活動の様子



(別紙)

○指導の流れ

学習活動	指導上の留意点
<p>1 本時の目標を知る。 ○雨の少ない地域の生活について理解する。</p> <p>2 アラビア半島の位置と自然について調べる。 ○雨が少なく草木がほとんど育たない地域(砂漠)では、水をどのようにして得ているのかを考える。</p> <p>3 乾燥した地域での生活について調べる。 ○オアシスでは水をどのように利用しているのかを知る。 ・洗濯・水浴び・農業に利用する。 ○オアシスの周辺ではどう生活しているのかを知る。 ・羊やラクダの放牧 ・羊やラクダの肉・小麦のうす焼きパン ○衣服はどのように工夫しているのかを知る。 ・長そで・長いたけの衣服 ○住宅はどのように作られているのかを知る。 ・土をこねて日干ししたレンガの家</p> <p>4 水をめぐる生活はどのように変化してきたかを考える。 ○原油で得た利益をもとに海水の淡水化・井戸水の電動モーターでのくみ上げにより各家庭に送る。 ○地下水をスプリンクラーでまく大規模農業になってきている。</p> <p>5 乾燥した地域の生活を振り返る。</p>	<p>・本時のキーワードは水であること、水が生活にとってどのように必要であるかを考えさせる。ベトナムや日本での生活と比較し、学習に興味を持たせる。</p> <p>・写真や画像を利用して興味を持たせ、理解を深めさせる。</p> <p>・乾燥した地域の中でも水を得やすい場所がオアシスであることを理解させる。</p> <p>・教科書の本文や図で日本語の意味の難しい言葉などを確認していく。</p> <p>・教科書の図⑤から世界で乾燥した気候の地域を理解させる。</p> <p>・東京と乾燥地域を比べ雨量が大変少ないことを理解させる。</p> <p>・乾燥に強い動物と植物を理解させる。 →ラクダ・羊・トマト 特にトマトはアンデス原産で乾燥に強いことを理解させる。</p> <p>・なぜ長そで・長いたけの服装なのかを考えさせる。 →日中の日差しや砂ぼこりをさけるため</p> <p>・日本やベトナムとちがい日干しレンガを利用するのはどうしてかを理解させる。</p> <p>・水のありがたさに気づき水資源を大切にしていることを理解させる。</p>

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：D-3】

#### 1 児童の日本語習得状況（平成28年6月10日）

●日本語習得チェックシート	レベル5
---------------	------

#### 2 児童の実態

- ①学年（小）：第6学年
- ②国籍及び母語：中国、中国語
- ③在留期間：68ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

4技能（聞く・話す・読む・書く）とも日常生活を送ったり、授業を受けたりする中で特に問題は見られない。しかし、助詞、動詞、形容詞の誤用が時々見られる。社会科では語句の理解が難しく、説明や補足をしている。自分の気持ちが日本語で表現できるように作文指導を行っている。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○社会：新しい文化と学問

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・歌川広重、伊能忠敬、本居宣長の業績について説明することができる。
- ・江戸時代の文化が、平成の時代にどのようにつながっているか説明することができる。

#### 5 指導内容の概要

※別紙参照

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・重要語句を漢字で繰り返し練習し、書くことができるようになった。
- ・授業中の疑問を自力解決することで、学習への意欲に繋がった。

#### 7 教材・教具

教科書、資料集

#### 8 活動の様子



（重要語句に線を引く。）

(別紙)

○指導内容の概要

学習活動	教師の支援	児童の状況
1 新しい文化と学問の教科書の本文を読み、自分が重要だと思う語句に線を引く。	○線を引いていない語句の中で新規に登場する語句について質問する。	・教科書に資料が掲載されていない語句について線を引いた。
2 線を引いた語句について説明する。	○理解が不十分な点については、資料集で確かめさせる。 ○辞書的な意味だけでなく、具体例を示して理解を促す。	・資料集に掲載されている資料を見ながら説明していた。
3 重要語句を漢字で繰り返し練習する。	○視写して練習した後、聞き取って書かせる。聞き取って書けない語句を重点的に練習させる。	・繰り返し練習した後は、ほぼ聞き取って書くことができるようになった。
4 3人の人物について説明する。 ・歌川 広重 ・伊能 忠敬 ・本居 宣長	○業績以外の内容については、教科書や資料集の解説文を音読させる。	・業績を書くことができるが、関連した内容まで広げて説明するまでには至らない。
5 江戸時代の文化や学問が、現在とどのようにつながっているかを説明する。	○「江戸時代は、～だったけれども、現在は～である。」と比較して特徴を説明させる。	・芝居の多様化 ・絵画の技術の多様化 ・交通手段の発達 ・地図の精密化 ・学校における教科の内容の多様化について違いを説明した。



## 日本語指導支援推進事業 実践報告書

### 【領域 D-3】

#### 1 生徒の日本語習得状況 (平成28年7月6日)

●DLA	ステージ5
------	-------

#### 2 生徒の実態

- ①学年(中) : 第1学年
- ②国籍及び母語 : ベトナム、ベトナム語
- ③在留期間 : 149ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

真面目に学習に取り組み、日常会話も流暢である。しかし、生活経験が少ないため、難解な学習言語の説明には支援が必要である。

#### 3 教科：単元名

○美術科 木彫壁飾りの制作

#### 4 本単元(本教材)の学習から伝えたい学力及び日本語能力

- ・切り出し刀や平刀がどのようなものであるか理解している。
- ・切り出し刀で線がぶつかり合うところを理解し、その部分を他よりも深く彫り込むことができる。
- ・平刀で滑らかにつなげることで、視覚的に重なり表現ができることを理解し、自分の制作に生かすことができる。

#### 5 指導内容の概要

- ・浮き彫り作品を見て、重なって見せるための工夫について考えさせる。
- ・イメージモデルで、重なりを出す方法を理解させる。
- ・安全面に気をつけて重なりがでるように、自分の作品を彫らせる。

※別紙参照

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

##### 工夫点

- ・日本との文化的相違により、彫刻刀の使用経験がない生徒には事前に彫刻刀の使用法を指導した。
- ・ターゲットセンテンスを「重なり」とし授業中に繰り返し伝えるようにした。
- ・バイリンガル支援員や特別支援学級担任にわかりやすい日本語の説明になっているかを点検してもらい、指導に生かせるようにした。
- ・重なり表現を理解させるために、木彫断面のイメージモデルや拡大モデルを使って、彫りの表現のイメージをわかりやすく把握させた。
- ・線がぶつかり合う部分については、言語や図だけでは理解しにくい生徒には、教師が事前に印をつけておく手だてをし、つまずきを防ぐようにした。

## 成果

木彫断面のイメージモデルや拡大モデルを見せたり、個別指導を行ったりすることにより、重なりの表現を理解し、自分の作品に取り入れることができた。

### 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・線がぶつかり合う部分の切り出し刀での彫り方を理解させるために、拡大モデルを作って説明した。（写真1）



- ・重なりの表現をイメージさせることは、難しいため、断面のイメージモデルを作成し、理解しやすいようにした。（写真2）



- ・線がぶつかり合う部分がわかりにくい生徒には、板に教師があらかじめ、印をつけておき、切り出し刀で深く彫る部分がわかるようにした。黒い印が消えるように彫り、その後、平刀で滑らかにつなげることで重なりが表現できることに気づかせるようにした。（写真3）



### 8 活動の様子

- ・導入時に、重なりの表現について見本や拡大モデル等を使って説明したため、作業内容は理解できた様子であった。
- ・彫刻刀で彫り始めた時には、平刀の使い方にとまどっている様子が見られた。机間巡視時に個別指導を行うことにより、自信を持って平刀を使う様子が見られた。
- ・終盤には、自分の作品に重なりの表現ができたことで、次時には他の部分にも応用していこうという意欲が見られた。

板書（写真4）



(別紙)

## 第1学年 美術科学習指導案

1. 題材 「木彫壁飾り（浮き彫り）」

2. 目標

浮き彫り作品の制作を通して、彫刻や塗装で使用する道具を正しく使い、生活を美しく豊かにする工芸作品のよさを味わう。

3. 指導計画（11時間）

- 第1時 図案を描く
- 第2時 板材に下絵を写す
- 第3～7時 切り出し刀や丸刀で彫る（深さを出す）
- 第8時（本時）切り出し刀や平刀で彫る（重なりを出す）
- 第9時 平刀で彫る 紙やすりで磨く
- 第10時 着色する
- 第11時 金具取り付け、鑑賞

4. 本時の目標

浮き彫りでは線がぶつかり合うところを他の部分よりも深く彫り込み、滑らかにつながることで、視覚的に重なり表現ができることを理解し、自分の制作に生かすことができる。（技能）

5. 準備物

彫刻刀、加工板材、共同作品、イメージモデル、彫刻刀拡大モデル、見本

6. 展開（指導計画）

学習活動	指導上の留意点	留意事項
<p>1. 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>浮き彫りの作品では、もようが重なって見えるように、どのように工夫しているだろうか。</p></div> <p>・学習課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・前時までの浮き彫りの過程について想起させる。</li><li>・共同作品や見本を提示し、重なりの方を考えさせる。</li><li>・浮き彫りの断面のイメージモデルを見せることにより、重なりの方について興味関心を持たせる。</li></ul>	共同作品 見本 断面イメージモデル
<p>2. 線のぶつかり合うところの段差を、切り出し刀を使って表現する方法を知る。</p> <p>・切り出し刀の使用法を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・線がぶつかり合うところをそのままにしておく、重なって見えにくいことに気づかせる。</li><li>・切り出し刀は引いて使用する他に、刃先を3方向から差し込んで使う方法があることを、拡大モデルを使って説明する。</li></ul>	イメージモデル 拡大モデル

<p>3. 丸刀の跡を平刀で滑らかにする方法を知る。</p> <p>4. 彫刻をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分だけでなく、全体的に彫り進める。</li> <li>・線がぶつかり合うところを切り出し刀で深く彫る。</li> <li>・丸刀の跡を平刀で滑らかにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面に気をつけて彫ることができるよう、次の2点に気をつける。</li> <li>・彫刻刀の前に手を持っていない。</li> <li>・一度に深く彫ろうとして力を入れすぎない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平刀で丸刀の彫り跡を消し、滑らかになげると、重なりを感じることを気づかせる。</li> <li>・平刀は滑りやすく、怪我をする危険性が高いので、安全面に留意することを知らせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケガを防ぐために、彫刻刀を持たない方の手には軍手をはめているか確認する。</li> <li>・彫刻刀の安全性を呼びかけると共に個別指導を行う。</li> <li>・個別指導時にも「重なって見えるようにしましょう」という言葉を意図的に繰り返し使用し、重なりの表現ができるようにさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒には、深く彫る部分はあらかじめ教師が彫っておき、平刀での作業のみさせる。平刀で彫る部分には印をつけておき、わかりやすくしておく。</li> <li>・線がぶつかり合う部分について理解しにくい生徒には、教師があらかじめ印をつけておく。</li> </ul>	<p>断面イメージモデル</p> <p>彫刻刀 軍手 見本</p>
<p>★評価：切り出し刀と平刀を使って、重なりの表現ができる。 (木彫板)</p>		
<p>5. 本時を振り返り、次時の予定を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の進捗状況から、次時の作業内容を確認させる。</li> </ul>	<p>振り返りシート</p>

個別の指導計画(年間指導計画)

年間指導時数(140)時間 第(2)学年 児童生徒名( ) 児童生徒の母語(フリビノ語) 日本語指導支援員名( ) 学校名( ) 市立 小学校( )

年目目標	日本語指導				教科等		
	学習内容	学習段階	目標	教材			
年目目標	日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など、基礎的な日本語の力を育てる。 教科等において、課題をつかむ・探求する・まとめる等の様々な学習活動に日本語で参加することができる。						
学習内容	・簡単な挨拶や日常よく使われる定型表現を聞いて、繰り返すことができる。 ・健康や安全に関する簡単な指示を聞いて、理解することができる。 ・日常生活でよく使われる語彙・表現を聞いて理解することができる。 ・学校での日課に関する指示を聞いて、適切に従うことができる。 ・学校生活に関係のある連文(2,3文)の簡単な指示や質問を、ゆっくりとした速さで繰り返し聞き、その内容を推察することができる。 ・実物の絵、身振りなどの支援を得て、ゆっくりとした速度の平易な言葉を使った1対1の会話を理解することができる。 ・身近な内容について、連文の短い話を聞いて、大意を理解することができる。	話す ・支援を得て、簡単な自己紹介ができる。 ・周りの人が言う簡単なあいさつや短い単語、定型表現を真似して繰り返すことができる。 ・周りの様子を捉えて、行動を真似ながら、それに伴う語句を言うことができる。 ・ジェスチャーや表現や簡単な単語を使って、学校生活に必要な最低限の意思疎通を行うことができる。	読む ・平仮名をいくつか読むことができる。 ・よく耳にする馴染みのある短い平仮名の語を読むことができる。 ・視覚的な支援のある絵本や紙芝居などの読み聞かせを楽しむことができる。 ・特殊音節(長音、拗音、撥音、促音)を含む平仮名の単語を読むことができる。 ・分ち書きで書かれた短い文を音読することができる。 ・助詞の「は」、「へ」を文中で正しく読むことができる。 ・カタカナで書く語彙の種類を理解することができる。 ・特殊音節(長音、拗音、撥音、促音)を含むカタカナの単語を書くことができる。 ・小学校1年生で学習する漢字をいくつか読むことができる。	書く ・大きなマス目の中に文字を書くことができる。 ・自分の名前や書段よく使う単語を書くことができる。 ・いくつかのカタカナや、馴染みのあるカタカナの語を書くことができる。 ・特殊音節(長音、拗音、撥音、促音)を含む平仮名の単語を書くことができる。 ・助詞の「は」、「へ」を文中で正しく書くことができる。 ・特殊音節(長音、拗音、撥音、促音)を含むカタカナの単語を書くことができる。 ・小学校1年生で学習する漢字をいくつか書くことができる。	教材 ・にほんごを まなぼう(文部省) ・日本語学級1(凡人社) ・日本語学級2(凡人社) ・ひろこさんのたのしいにほんご1(凡人社) ・こどものにほんご①(スリーエーネットワーク)	国語 日本語指導の目標	算数 日本語指導の目標
4					主な単元名	主な単元名	
5							
6	①				スミー	登場人物の行動や会話から、場面の様子について理解することができる。	1000までの数
7	②				こんなもの、見つけたよ	「初め」「中」「終わり」を意識して、自分の思いを書きことができる。	かさ
9					大すきなもの、教えたい	伝えたいことについて、必要な材料を集め、話す順序を考え、丁寧な言葉遣いで話すことができる。	計算のじゆんじよ
10					どうぶつ園のじゆうい	「何について、どのようなかを理解することができる。」 ・人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して音読することができる。	かけ算(1)
11					お手紙		
12					お話のさくしやにならう	登場人物を設定し、出来事や会話を想像してお話にまとめることができる。	かけ算(2)
1	②				おもちゃの作り方	内容のまとまりを考え、手順に沿って書くことができる。	
1	③				あつたらいいな、こんなもの	相手に分かりやすいよう話す順序を考え、発音することができる。 ・友達の話や質問を聞き、感想を述べたりすることができる。	三角形と四角形
2					わたしはおねえさん	時、場所、人物、出来事などに注意して、物語の大切さを読み取ることができる。	九九のきまり
1					見たこと、かんじ	必要な事柄を集めて、経験したことを詩に表すことができる。	九九のきまり
2					おにごっこ	文章の中から、問いとそれに対応する答えを肩つけて、表に整理することができる。 ・自分の経験と書かれていることを比べながら文章を読むことができる。	100cmをこえる長さ
3					みんなできめよう	話題について、自分の考えをもって発表することができる。	どんな計算になるのかな
3					スーホの白い馬	登場人物の行動から、場面の様子や想像して読んでいる。 ・物語を読んで心に強く残ったことを書き抜き、感想をまとめることができる。	1000までの数
3					楽しかったよ、二年生	「初め」「中」「終わり」の構成で文章を書くことができる。 ・文章を声に出して読み返し、読みにくい部分や間違っているところを書き直すことができる。	はこの形

学習段階... I 初期の前期段階 II 初期の後期段階 III 教科につながる学習段階

学習内容... ① サバイバル日本語 ② 日本語基礎 ③ 技能別日本語 ④ 日本語と教科の統合学習 ⑤ 教科の補習





個別の指導計画(年間指導計画)

年間指導時数(140)時間 第(5)学年 児童生徒名( ) 児童生徒の母語(ベトナム語) 日本語指導支援員名( ) 市立 小学校( )

Table with columns: 年間目標, 学習内容, 月, 目標, 教材, 教科等, 主な単元名, 日本語指導の目標, 主な単元名, 日本語指導の目標. Rows include learning objectives for Japanese language and math, and detailed lesson plans for reading and writing activities.

学習段階... I 初期の前期段階 II 初期の後期段階 III 教科につながる学習段階 ④ 日本語と教科の統合学習 ⑤ 教科の補習

個別の指導計画(年間指導計画)

年間指導時数(140)時間 第(1)学年 児童生徒名( ) 児童生徒の母語(ベトナム語) 日本語指導支援員名( ) 学校名( 市立 中学校)

年目目標	日本語指導				教科等					
	学習内容	学習段階	月	学習内容	教材	主単元名	(国語)	(社会)	主単元名	日本語指導の目標
・日本の学校生活や社会生活に関する理解を深め、日本語で学校生活に必要となる文字や文型などの基礎的な日本語の力を育てる。 ・教科指導においては、学習語彙を増やし教科学習の大まかな内容が理解できるようにする。基礎基本を定着させる。	教科学習の内容に関心をもち、集中して聴くことができる。	話す さまざまなトピックの会話に積極的に参加することができる。	書く 参考資料や辞書を使い、資料を収集して文章を書くことができる。	教科書	話し方について知り、声に出して文章を読むことができる。	話し方はどうかな	日本語指導の目標 話し方について知り、声に出して文章を読むことができる。	社会	世界の姿	緯度と経度を使って世界の地点を示すことができることにも、世界のおおまかな略地図をポイントをふまえて描いたり、統計資料を活用したりすることができる。
	教科学習で、教師が説明する内容の大筋と流れをある程度理解することができる。	読む 教科特有の語彙の入った文章を読んで、大意を理解することができる。	読む 内容に見合った語彙や表現の文法を使い、資料を収集して文章を書くことができる。	教科書	詩の心―発見の喜び	詩の心―発見の喜び	言葉の意味を的確に捉え、詩を音読して読み味わうことができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
Ⅲ 教科につながる学習段階	授業のテーマに関連した書き言葉の語彙や表現を聴いてある程度理解することができる。	読む 手紙文、観察文、報告文、説明文など、いろいろな種類の文章を読み、大意を理解することができる。	書く 話し言葉と書き言葉との違いを意識して、学年相応に近い漢字や漢熟語を使って作文を書くことができる。	教科書	飛べ かもめ	飛べ かもめ	場面の様子や登場人物の思いに注意して、作品を読み味わうことができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	授業のテーマに関連した書き言葉の語彙や表現を聴いてある程度理解することができる。	読む 本や文章を読み、疑問点を質問したり、考えたことを発表したりして、内容の理解を深めることができる。	書く 敬体と常体の違いに留意して、統一のとれた文章を書くことができる。	教科書	会話が弾む質問をしよう	会話が弾む質問をしよう	話の内容が深まったり広がったりするよう、な、よりよい質問をすることができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	教科学習で、グループや学級全体の話し合いや発表を聴いて、大意を理解することができる。	読む 本や文章を読み、重要な点を抜き出し、感想文を書いたりして、内容の理解を深めることができる。	書く 敬体と常体の違いに留意して、統一のとれた文章を書くことができる。	教科書	碑	碑	本の中から目的に合った文や語句を見つけて書くことができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	丁寧な表現を使った文を聴いて、その意味を大体理解することができる。	読む （間違いはあるが）丁寧な表現や敬語を使った会話に参加することができる。	書く 複雑な文構成を含む文章を書くことができる。	教科書	スズメは本当に減っているか	スズメは本当に減っているか	事実と筆者の考えとを読み分けながら、文章の展開を捉えることができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	通常のスピードで進む教科学習の中で、教師が説明する内容の大筋を理解することができる。	読む 漢語、漢熟語が入った文章を読んで、学年相応の教科書を読んでいる。	書く 書いた文章を読み返し、読み手の立場に立って推敲することができる。	教科書	順序立てて説明する	順序立てて説明する	情報を整理し、順序立てて分かりやすく説明する。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	教科学習で、学級全体の話し合いや発表に積極的に参加することができる。	読む 教科内容に関連した話し合いに積極的に参加することができる。	書く 内容に見合った長さの作文を書くことができる。	教科書	具体例を挙げて伝えよう―「ことわざ」スピーチ	具体例を挙げて伝えよう―「ことわざ」スピーチ	具体例を取り入れ、順序立ててスピーチすることができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	教科学習で、学級全体の話し合いや発表に積極的に参加することができる。	読む 語彙表や辞書などの助けを得て、学年相応の教科書を読んでいる。	書く 内容に見合った長さの作文を書くことができる。	教科書	古典	古典	歴史的仮名遣いに注意して古文を音読することができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	教科学習で、学級全体の話し合いや発表に積極的に参加することができる。	読む 相手や場面・目的に応じて、効果的な表現方法を用いて話すことができる。	書く 内容が豊かで、全体の構成を考えた複段落の作文を書くことができる。	教科書	案内や報告の文を書こう	案内や報告の文を書こう	必要な情報を選び出し、分かりやすい構成で文章にまとめることができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	授業のテーマに関連した抽象的な語彙や表現を聴いて理解することができる。	読む クラス全員に対して、学習内容について、教科用語を使い、筋道を立てて詳しく説明したり、発表したりすることができる。	書く テーマに見合った適切な語彙や学年相応の漢字を使って書くことができる。	教科書	少年の日の思い出	少年の日の思い出	場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して、作品の内容を理解することができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
	丁寧な表現も含め、様々なスタイルの文章を聴いて理解することができる。	読む 丁寧な表現や敬語を使った会話に参加することができる。	書く 表記上、文法上、正確度の高い文章を書くことができる。	教科書	語の意味と文脈、多義語	語の意味と文脈、多義語	語のさまざまな意味や、文脈の働き、多義語について理解することができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
		読む 相手や場面・目的に応じて、効果的な表現方法を用いて話すことができる。	書く 内容が豊かで、全体の構成を考えた複段落の作文を書くことができる。	教科書	集まって住む	集まって住む	目的に合った本を探し、必要な情報を読み取ってまとめることができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
		読む 丁寧な表現や敬語を使った会話に参加することができる。	書く 表記上、文法上、正確度の高い文章を書くことができる。	教科書	ニュースの見方を考えよう	ニュースの見方を考えよう	情報への接し方と情報の用い方を身につけることができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
		読む 丁寧な表現や敬語を使った会話に参加することができる。	書く 表記上、文法上、正確度の高い文章を書くことができる。	教科書	話し合いで理解を深めよう―グループディスカッション	話し合いで理解を深めよう―グループディスカッション	相手の発言をしっかりと聞き、話の方向を捉えて自分の考えを話すことができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
		読む 丁寧な表現や敬語を使った会話に参加することができる。	書く 表記上、文法上、正確度の高い文章を書くことができる。	教科書	学校新聞の記事を書こう	学校新聞の記事を書こう	学校新聞作りを通して、図表を用いて情報を効果的に伝えることができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
		読む 丁寧な表現や敬語を使った会話に参加することができる。	書く 表記上、文法上、正確度の高い文章を書くことができる。	教科書	トロッコ	トロッコ	文学作品を読み、情景描写などの表現の効果を捉えて読み、内容を理解することができる。		世界の姿	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。

学習段階…Ⅰ初期の前期段階 Ⅱ初期の後期段階 Ⅲ教科につながる学習段階

学習内容…①サバイバル日本語 ②日本語基礎 ③技能別日本語 ④日本語と教科の統合学習 ⑤教科の補習



# < JSL参照枠(全体)とDLA(4技能)の評価例 >

## 文部科学省 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAから

ステージ 学齢期の子どもとの関係 参加との関係	DLA<話す>				DLA<読む>				DLA<書く>				DLA<聴く>			支援の段階	日本語の学習段階		
	話の内容とまとめり	文・段落の質*	文法的正確度	語彙*	発音・流暢度*	話す態度	読解力	読書行動	音読行動*	語彙・漢字*	読書習慣・興味・態度	内容	構成*	文の質・正確度	語彙・漢字力			書字力・表記ルール*	書く態度
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる <input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い	<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる	<input type="checkbox"/> 語彙・漢字*	<input type="checkbox"/> 読書習慣・興味・態度	<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける	<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる	初期の 後期段階	個別学習支援段階	教科につながる学習段階	日本語の学習段階								
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる <input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い	<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> ややくっぴりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 安定して文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 身近な内容の話の話を聴いて大体理解できる <input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話を聴いて支援を得てある程度理解できる	初期の 後期段階	個別学習支援段階	教科につながる学習段階	日本語の学習段階								
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる <input type="checkbox"/> 日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 身近な内容の話の話を聴いて大体理解できる <input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話を聴いて支援を得てある程度理解できる	初期の 後期段階	個別学習支援段階	教科につながる学習段階	日本語の学習段階									
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる <input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢度が低い	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 身近な内容の話の話を聴いて大体理解できる <input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話を聴いて支援を得てある程度理解できる	初期の 後期段階	個別学習支援段階	教科につながる学習段階	日本語の学習段階									
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	<input type="checkbox"/> 二語文 <input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さなし	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む <input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む <input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文を書こうとする <input type="checkbox"/> 表記ルールのある程度理解して文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 評価対象外	初期支援段階	初期支援段階	教科につながる学習段階	日本語の学習段階									
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	<input type="checkbox"/> 一語文 <input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さ無し	<input type="checkbox"/> 文字習得が始まる <input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字習得が始まる <input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる <input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が始まる	<input type="checkbox"/> 評価対象外	初期の 前期段階	初期支援段階	教科につながる学習段階	日本語の学習段階									

(一年以内)

(6か月以内)

# ＜ 日本語習得度チェックシート(試案)・・・4つの力と文法のレベル ＞

## 兵庫県日本語指導連絡協議会(H22.3)作成をもとに兵庫県教育委員会作成

レベル	聞く力	話す力	読む力	書く力	文法	日本語の学習段階
レベル5	(長文も聞き取ることが可能な段階) ■教科学習に必要な単語や表現を増やしていく	(学習言語能力・教科学習に必要な日本語指導の段階) ■教科学習に必要な単語や表現を身につけさせる	<ひらがな・カタカナ> 文を「ゆっくりに」正しく音読できる <漢字> 小3までに習う漢字の読み(11～21字)	<ひらがな・カタカナ> 単語を聞いて書くことができる 単語の絵を見て書くことができる <漢字> 小3までに習う漢字と読み(13～23字)	日本語初級文型前半 文法習得度診断用テスト② 正解80～100点	教科学習段階
レベル4	(短文レベルも聞き取ることが可能な段階) ■長文表現も自然な速さで聞き取れるよう学習を進める	(ある程度正確な表現ができる段階) ■文型後半の学習を進める ■より幅広い表現を定着させる	<ひらがな・カタカナ> 単語を正確に読める <漢字> 小2までに習う漢字の読み(14～27字) 小3までに習う漢字の読み(0～10字)	<ひらがな・カタカナ> 濁音・半濁音・拗音を正しく書く(45～58字) <漢字> 小2までに習う漢字を書く(10～20字) 小3までに習う漢字と読み(0～12字)	日本語初級文型前半 文法習得度診断用テスト② (正解50～79点)	初期の後期段階
レベル3	(ある程度の意思疎通が可能な段階) ■文型後半の学習を進め、複文レベルの表現を身につけさせる	(初級日本語文型前半が身についている段階) ■文型後半から学習し、定着を図る	<ひらがな・カタカナ> 濁音・半濁音・拗音を読める <漢字> 小2までに習う漢字と読み(0～13字)	<ひらがな・カタカナ> 濁音・半濁音・拗音を正しく書く(0～44字) <漢字> 小2までに習う漢字と読み(0～9字)	日本語初級文型前半 文法習得度診断用テスト① 正解40～50点 文法習得度診断用テスト② 正解0～49点	
レベル2	(教室内の簡単な言葉や身の回りの言葉を聞き取れる段階) ■日本語初級学習を進め、定着を図る	(ある程度の意思疎通が可能な段階) ■日本語初級学習を進め、定着を図る	<ひらがな・カタカナ> 清音を正しく書く(35～46字) <漢字> 小1で習う漢字の読み(9～15字)	<ひらがな・カタカナ> 清音を正しく書く(35～46字) <漢字> 小1で習う漢字を書く(10～18字)	日本語初級文型前半 文法習得度診断用テスト① (正解20～39点)	
レベル1 ○日本語基礎段階	■生活言語の定着を図った後、日本語初級学習を進める	■正しく自己表現するための学習が必要 ■生活言語の定着を図った後、日本語初級学習を進める	<ひらがな・カタカナ> 清音を正確に読める <漢字> 小1で習う漢字の読み(0～8字)	<ひらがな・カタカナ> 清音を正しく書く(0～34字) <漢字> 小1で習う漢字を書く(0～9字)	日本語初級文型前半 文法習得度診断用テスト① (正解0～19点)	本初語指導
○日本語がほぼ初めでの段階	■生活習慣や学校適応を図るための日本語指導習得 ■意思疎通ができる最小限必要な生活言語の習得	■生活習慣や学校適応を図るための日本語指導習得 ■意思疎通ができる最小限必要な生活言語の習得 ■聞いて理解したり行動できる	判定なし			

(一年以内)

(6か月以内)



